

# 入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校  
3年生 第7号  
2021年5月14日  
編集・発行 吉成正士

弘瀬喜代さんの講演会中止，残念です。新型コロナの状況下では致し方ないのかもしれませんが。

「オンラインによる～」とか言うものの，やはり，ライブ感というか，ふれあいは大切にしたいものです。だからまたの機会に，ぜひ弘瀬さんのお話を聴いてもらおうと思います。楽しみにしておいてください。



人権作文の取り組みがスタートしました。朝の時間に資料を読んで，自身の体験を振り返ったり，感想を書いたりする時間になっているかと思えます。それをきっかけに，昨年からの1年間をふり返り，人権について気づいたこと，感動したこと，後悔したこと，苦しかったこと，嬉しかったこと，学んだこと，また自分自身変わったなと思うことについて，意欲的に書いてもらいたいと思います。

今回からしばらく，毎朝みなさんが書いている感想を中心に，人権だよりに書いてみたいと思います。

私も、「部落出身の人ともし結婚したら反対する？」とお母さんに聞いたことがありました。そしたらお母さんはちょっと間をおいて、「反対はせんかな」と言いました。私はビックリしました。そしてお母さんがもう一度口を開いて、「おばあちゃんとおじいちゃんは反対するかもしれないけど…」と言い、「ああやっぱり，おばあちゃんたちは反対するかもしれないのや」と思いました。

私もこの作文を書いた人と同じで，好きな人と結婚したいし，家族を不幸にはしたくないしと，お母さんと話したときも思って，今改めて思いました。そして私のせいで家族を不幸にさせたくないとも思いました。また機会があれば話をしてみたいです。 MY

「また機会があれば話をしてみたい」と思えること，そしてそれを行動に移すことが，何よりの差別解消への道です。おじいちゃんやおばあちゃんの世代，父母の世代，そして，私たちの世代。世代ごとで，差別意識は確実に変わってきてることがよく伝わってきます。それは，正しい教育と学習が生んできた成果です。

差別は，今すぐにでもなくしたいものです。当事者の思いを想像すれば，でも私たちは，魔法使いでも神様でもありません。ですから，時間をかけてでも，なくしていくしかないのです。次の世代につなげるのは，私たちです。

私も母と祖母に，「私が部落の人と結婚するって言うたらどうする？」と聞いたことがあり，そのときの返事は，祖母は「ダメだ」と言いました。母は，「部落の人と結婚したら家族に迷惑をかけたたりするかも」と言いました。私も家族のことは大好きなので，大好きな人が差別をしているのは嫌なので，部落差別については，また家族と話したいと思えます。

身近な人が，人のことを悪く言ったり，差別をしたるするのは，気分のいいものではありません。できることなら，美しく生きてほしいと願いますし，自分も美しく生きたいと思うのではないのでしょうか。

私も同じ気持ちです。それで両親を嫌ったこともありました。ケンカになったこともありましたが，でも，それでは解決しないことを学びました。みなさんのように，中学生の頃からこんな学びができていれば…と思わずにはられません。

でも同時に，「この人たちがいたから，自分はそんな考え方，生き方はしないようにしよう」と思うようになりました。それに，「そうなったからには何か原因があるはず」と考えるようになりました。だからといって，差別が許されるわけではありません。ただ，「根比べ」です。「差別はいけない」ということは，絶対に負けることのない闘いです。

みなさんのまっすぐで純粋な思いは，必ず伝わります。そしてみんなに，人をいじめない，人を差別しない，清らかな生き方を掴んでもらいましょう。

部落出身だから，ちゃんとした人じゃないというきめつけに違和感を感じた。差別をされてきたから，ちゃんとした人じゃないというきめつけこそが駄目だと思う。

(作文を)書いている人も差別している気がした。親は子を守りたい，幸せになってほしい，のであれば，子を選んだ人を出身地で決めるのではなく，内面で見てあげれば良いと思った。駄目な道に進むようであれば止めてあげる。でも，もしかしたらいい道かもしれないと思ったら，一緒に考えたらいいのではと思う。

自分の子であっても，すべてが親のものではない。子だって気持ちを持つ人間なんだからと思った。 SC

親は子を守りたい。幸せになってほしい。だからといって，部落の人を不幸に陥れていいのか。それは違いますよね。自分だけが良ければ，うちの家が良ければ，と自分勝手な幸せで，人を不幸にしていけないはずなんです。みんなが幸せになる道を考えていきたいものです。

公民で，日本国憲法についてはもう学びましたか？

第24条「婚姻は，両性の合意のみに基いて成立し，夫婦が同等の権利を有することを基本として，相互の協力により，維持されなければならない。」

下線部の「のみ」は，なくても意味は通ります。でも「のみ」があることで強調され，より深く強い思い伝わってきます。どうせ勉強するのなら，受験対策だけでなく，そこに込められた深い意味を学びとっていききたいものです。

「芽吹き」の中でもあったけど，「幸せになってもらい

たい」から、子どもの好きになった人を否定するというのは、正直、何を言っているんだろうと思ってしまいました。確かに、未だに生まれた場所だけを理由に差別されている人はいるし、その人と結婚すれば自分も差別を受けてしまうかもしれないから駄目だという考えは理解できるけど、納得はいきません。結婚するくらい大事に思っている人のことを否定されて幸せなはずないと思います。この作文の作者が言っている通り、差別している人も、本当は優しい人がたくさんいるんだろうと思います。私もじっくりと話し合っていきたいです。 AF

とにかく話し合いをすることです。対話をする習慣を身につけることです。対話術を身につけることです。人の話を聞き、自分の思ったことをちゃんと言い、それが当たり前になることです。急に、いっぺんにできるようにはなりません。日々の授業の中から、日々の生活の中から、そうなるようになっていくことです。受け身の自分から、積極的、主体的な自分へ変わっていくことです。それも、人権学習から学んだことの一つではないでしょうか。

そんな自分へ変わっていけば、勉強もするようになります。人にも、何事にも誠実になります。学ぶことの必要性や大切さが分かってきます。放っておいても勉強するようになります。成績も上がります。人権学習を突き詰めていけば、学力が上がっていくのです。

みなさんは、「同和カルタ」というものを知っていますか？作られたのは40年以上も昔ですが、これが本当によくできているのです。ふとしたときに今でも思い出すのですが、その「か」が、これです。

「学校の 教えを家庭で 子が先生」

今回の感想を読んでいて思いました。何人もの人が家族と話し合っているということ。多くの人が、家族と話そうとしていること。まさに、学校で教わったことを、それぞれの家庭で、みなさんが先生になろうとしているのだと思います。しかもその素晴らしいところは、みなさんが価値観を押しつけようとしているのではなく、対話、話し合いで闘おうとしているということです。

闘うといっても、いろんな闘い方があります。ケンカなどの激しい闘いだけが闘いではありません。ときには笑い合ったり、ときには逃げ出したりしても構いません。とにかく相手との関係性を切らず、音楽やスポーツ、アニメやまんが、ゲーム、映画など、みなさんの得意分野のなかで感じられる人権で、相手に迫る闘い方もあるのです。そういう意味で言うと、みなさんの若い感性や知恵は、大きな武器です。ぜひ自分の得意分野で闘うことを考えてみてください。

部落出身の人と結婚すると娘も大変な思いをするという考えで、お母さんは反対すると言ったのかもしれないけど、部落出身の人は別に何か悪いことをしたわけではないのに、昔から部落とされていた地域に住んでいたというだけで結婚差別を受けるのは、ものすごく理不尽だと思った。おばあちゃんのように人権教育を受けていなかった世代の人は、差別が当たり前だと思って、

住んでいる場所で孫に友達を選ばせようとしていたのかなと思った。本当は優しい人でも、そういう教育を受けてきたことで、知らない間に差別してしまうことがあるんだなと思った。 YM

「森を見て木を見ず」

森全体ばかりに気を取られて、一本一本の木を見ていないと、大事なことを見逃してしまうということ。

部落に対する誤ったイメージだけで見ていると、一人一人の人を見逃してしまうことがあります。

日本人に対するイメージと、みなさんは一致していますか？徳島の悪いイメージで、みなさんを判断されたら、あなたはどう思いますか？もし八万中学校が悪く言われて、それでみなさんを判断されたら、あなたはどう思いますか？

「集団＝個人」ではありませんよね。たとえ集団に所属していても、個人個人には個性があり、同じではありません。でも差別は、その集団で個人を見定めて、決めつけていきます。そのおかしさに気づくことです。

おばあちゃんは人権教育ではなく、差別教育を小さい頃から受けてきたのでしょうか。だからといって、おばあちゃんが極悪非道な人とは限りません。ただ、正しい学びができず、間違った知識ばかりを植えつけられて、それが身体に染み込んでしまっているのです。それを一つ一つ剥がしていくことが、おばあちゃんのためであり、家族のためであり、みんなのためになるのだと思います。

私はこの人権作文を読んで、部落差別は他人事ではないのだと感じました。

私の父や母に人権学習で習ったことを報告すると、「部落の人との結婚してもいいよ」と言っていました。それどころか、「部落の人は団結力があってすごい」と、笑顔で言っていました。作文のようにお母さんやおばあちゃんたち、家族が反対したら、話し合っ解決できたらいいなと感じました。 MY

時代は本当に変わってきています。でもそれは、何もなくて、放っというて、勝手に、自然に変わってきたわけではありません。多くの人々の、多くの当事者の創意工夫と、粘り強い取り組みがあったから変えてこられたのです。あとは、私たちの問題です。

このお家の人々がどんな人権学習を受けてきたのか分かりません。ぜひ聞いてみたいものです。でもお家の方が言っている通り、同和教育でも人権教育でも、団結することの大切さ、仲間づくりの大切さは、何十年にもわたり訴え続けてきました。

差別的なことを言う人の中には、「集団でやってくる」とか言う人もいます。でも、一人で無理なことは二人で、二人で無理なことは三人で、三人でも無理なことは多くの仲間と、と考えるのは、自然なことです。みなさんも、「おおきななぶ」などのように、幼稚園や小学校で学んできたのではないのでしょうか。中学校でみなさんが日ごろ行っている班活動やグループ学習もその一つなのです。